

「人口革命」の波紋 —要旨—

(昭和36年11月25日, 12月2日・学部開設一周年記念講演会講演)

大道安次郎

いまから約三十年まえに、フランスのA・ランドリーが十九世紀中葉以後から目立って死亡率の減少と出生率の低下の傾向の現われていることに着目して、これを人口学的立場から「人口革命」としてとらえた。その結果が二十世紀に入ると顕著に現われてきて、人口構成とくにその年令構成の上に注目すべき一つの現象が齎された。それは「人口高齢化」の現象である。フランスの人口学者ソーヴィはこのことを鋭く指摘し、警告を発している。欧米の先前国の人口構成は次第に高齢化の現象を示してきている。わが国もその例外ではない。

そこで考えねばならない最初の問題は、どうして文明国で「高齢化」が行なわれているかということについてである。それは後進国では、人口動態が多産多死型であり、人口構成が、低年型であるのに対して、先進国では少産少死型であり、高年型であるからである。

だがさらに問わねばならないことは、どうして先進国が少産少死型で、高年型であるかの要因についてである。理論的にいえば、出生率の低下と死亡率の減少である。しかしこの二つの要因が同じウエートを持って作用するかどうかは、さらに歴史的事実によって確かめる必要がある。フランス、ドイツなどの歴史的事実によると、死亡率の減少よりも出生率の低下の方がより多く作用している。ただ将来はこの二つの要因はともに積極的な作用をするであろうと推測される。わが国の場合もその例外ではない。ただ欧米の先進国の高齢

化が170年から50数年の長い年月を費して行なわれているのに対して、日本の場合は、約35年の短日月の間に急速に行なわれるという点は注目すべきであろう。

だがさらに問わねばならないことは、どうして先進国に出生率の低下と死亡率の減少が見られるかということについてである。その主な理由として、出生率の低下については、

1. 家族計画に基づく産児調節の普及
2. 産児調節を可能ならしめる医学技術の発達
3. 産児調節を是認する思想, 社会的風潮。

死亡率の減少については、

1. 医学技術の発達と医薬の発明。——「生命の延長」
2. 公衆, 環境衛生の改善
3. スポーツその他健全娯楽の普及
4. 生活条件の向上——生活水準, 消費水準の向上

などが考えられる。

しかしさらに「高齢化」を受けとめている社会的条件を看過してはならない。産業革命以後の生産技術の向上, 技術革新によって、生産性が高まり、社会的富が増大したこと, それに加えて社会的分配制度の改善と社会保障制度の漸進などがその主なる条件といえよう。

二

ところで人口高齢化の齎す社会的波紋は想像以上に大きなものがある。まずその経済的波紋についてであるが、生産年齢人口の相対的減少, 非生産年齢人口(老令人口の増加)によって、もし現在

他の条件が同じとするならば、経済的水準、経済成長率をどのようにして維持するかが将来の問題として投げかけられている。わが国の場合は、それとは若干異って経営の合理的再編成がまだ働く能力の充分ある老齡人口にしわ寄せがくる。一方で老齡人口が増加するのに、他方就職戦線から追い出すという事態が生じつつある。その上、家族の近代化、一般の家族の貧困が老人の生活をおびやかしている。これはまさに「社会問題」だといえる。早急に老人憲章、老人福祉法の制定などが要望されている。

また社会の進歩、退歩、停滞について、人口の高齡化がどのような作用をするかについても、いまから十分研究を進めておく必要がある。

その他に人口革命——高齡化の投げかける社会的波紋は数々あるが、ここではただ以上のことからの指摘だけにとどめよう。

三

なお人口流動とくに移動については、最近の人口の大都市集中化も看過しえない重大な諸問題を投げかけている。それに大都市の昼間人口と夜間人口のはげしい落差から生ずるさまざまな問題も、いまにしてその対策を考え、将来の計画を樹立すべきであろう。

この点については広域圏の問題とも関連するが、ここでは紙数の関係で省かせて頂く。